

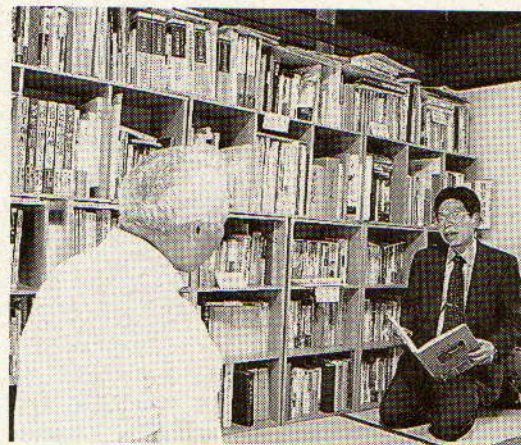
筑紫野市の農家借り受け

私設河川図書館オープン

水・河川・湖沼に関する約八千冊の文献を集めた私設の「古賀河川図書館」が七日、筑紫野市武蔵に開館した。元養蚕をしていた古い農家を借り受け、専門家からも「水にかかわる蔵書としては全国でも例がないほど充実した内容」と評価されている。事前に電話連絡すれば、午前十時から午後五時まで無料で閲覧できる。

元水資源開発公団職員 古賀さん

蔵書8000冊、35分類に



河川図書館で来館者に応対する古賀邦雄さん(右)

元水資源開発公団職員 古賀さん
物にまつわる文献も豊富。ダム建設をめぐる政史、文化などの関連文献を収集始めたという。二

室に、古賀さんが独自に達三の「金環蝕」、水没考案した文学、紀行、歴史する地権者の補償問題を史、水運、民俗、治水な取り上げた城山三郎のど三十五に分類して文献「黄金峡」など小説も多を陳列している。

一般の人にも興味深い古賀さんは一九六七年加藤清正、武田信玄などに公団に入庁後、用地交渉を担当。仕事から地域を知られた歴史上の武将、人を知ることが大切な歴史。川や水にまつわる歴史。文化などの関連文献を収集始めたという。二

〇〇一年三月、大分県日田市にある大山ダム建設事務所副所長を最後に退官後、月刊誌などに水の文献研究に関する論文などを寄稿している。

古賀さんは「人も水とともに生きてきた。地球環境と密接な水問題を考える文献も多いので、気軽に利用してほしい」と呼びかけている。

連絡は0962(06206)6407へ。